

(様式2)

令和5年 5月 12日

女性の就農環境改善計画

(令和5年度女性の就農環境改善支援事業)

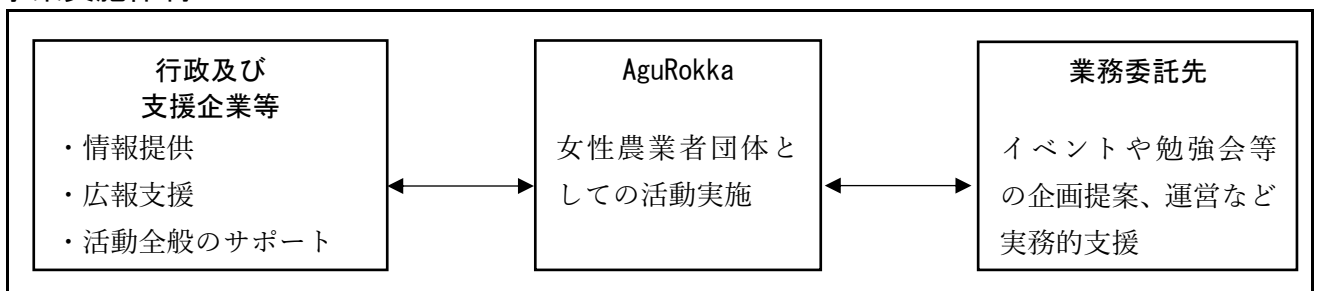
実施するメニュー (該当に○)	第4の(1) (施設等確保の取組)	
	第4の(2) (グループの新たな取組)	○

1 地域取組主体の概要

名称	くまもと農業女史コミュニティー AguRokka (あぐろっか)	
所在地	熊本県水俣市月浦199-4(株)Mr. Orange内	
代表者	永井 香織	
主な組織の事業内容(注)	AguRokkaは女性農業者たちが、活動や交流を通して共に成長し夢を実現していく事で、明るい農業の未来へ繋げる事を目的とし、以下の活動に取り組む団体である。 1 構成員の意識改革、スキルアップ 2 構成員の夢の実現 3 構成員の経営の発展 4 女性農業者の社会活躍促進と地位向上 5 持続可能な農業の実現 6 その他構成員が必要と判断する取組み 具体的には、上記目的に沿ったイベントや勉強会の開催、ワークショップ、交流会、視察、学生との体験交流や講義活動、商品開発など、女性の活躍推進や夢を実現するために必要な様々な場や機会を提供していく。	女性農業者の人数：12名

(注) 主な組織の事業内容は、具体的に記載する。

2 事業実施体制



(注) 実施に必要な関係機関との実施体制を記載する。

3 女性の農業への呼び込み・定着・活躍のための取組計画（実績）

（1）地域取組主体における女性の農業への呼び込み・定着・活躍の課題（注）

【社会情勢等を踏まえた地域の女性農業者の課題】

■女性農業者の活躍が期待される中、従事者数は減少し続けている。

女性が経営に参画する事で収益性が向上するという分析が出ている中で、ふだん仕事として主に自営農業に従事している基幹的農業従事者総数のうち、女性の割合（全国）は1990年から2019年の30年間で48%から40%へと減少している。

このことは、農業産出額全国5位（令和3年時点）である熊本県においても深刻な問題であり対策が必要であるが、今のところ熊本県庁には女性農業者に直接関連する部署は存在しておらず、協力連携できる窓口がない状態である。

■女性の活動の場を広げる事に対する家族や周囲の理解とギルトフリー

女性農業者の多くは家業としての農業に従事しており、外部との交流や学びの機会がもともと少ない。そして、いざそのような場に出かけるとなると今度は「何をしに行くのか」「遊んでいるだけでは？」など、家族や周囲から否定的な視線や言葉をかけられたという声も聞くため、家族や周囲に理解が得られるよう働きかけていく必要がある。

また、当の女性農業者自身も、仕事や家事育児等を置いて出かける（自分がしたい事を優先する）事に対して幾分かの罪悪感を持っているようにも見受けられるため、本人も「自分が成長し夢を叶えていきいきと働く事は、家族や子供にとって、所属経営体にとって、農業という産業にとっても、全てにおいてプラスでしかなく、ギルトフリーである」という事を理解し、安心して活動・活躍できるようにしていく必要がある。

■女性が農業をする楽しさ、やりがい、魅力など、プラスイメージの社会浸透

女性農業者減少の背景には、男女共同参画社会の推進や高学歴化の他に、「農家に嫁いだら農業を手伝うのが当たり前」という価値観が、「必ずしも農業をしなくても良い」という風になってきている事もある。選択肢の自由がある状況下で、女性があえて農業者になる選択をすれば、それだけ職業としての魅力があると感じられるようにしていく必要がある。

そのためには、現在農業に携わっている私達が、楽しさ・やりがい・魅力について身をもって感じ、それを体現・共有・発信していく事が重要であると考えている。

【現状の労働環境を踏まえた施設等の必要性（既存の施設等の利用状況を含む）】

グループ活動に関わる応募につき割愛致します。

【その他女性の農業への呼び込み・定着・活躍の課題】

■女性農業者のグループ（ネットワーク）構築と持続可能な活動

特に家族経営の農家では、普段から家庭の枠内で仕事をしており、外部との接触機会が少ない。学びや交流の場があっても、誰が参加するかという検討段階においても女性農業者の優先順位は低くなりがちで、大抵は家長（経営体代表）が参加する事になる。又は、婦人部等での交流があったとしても、同じ生産物の仲間だけに限定されるなど、人間関係は狭くなりがちな環境であるため、地域や生産物等の垣根を超えたネットワークを構築していく事で、生産性及び収益力向上・イノベーション効果が期待できる。

しかしながら、熊本県ではこれまで地域や作物等の垣根を超えた女性農業グループは立ち上がっておらず、AguRokkaが初の設立となる。この取組みを成功させ、持続可能なグループへと成長させていくためには、最初からハードな活動をするよりも、役員に負担がかかりすぎない活動内容や方法の検討、誰でも気軽に参加できるようなイベントの企画や雰囲気づくりが必要と考えている。

■女性農業者が集い、学び、交流する機会の創出

これまでに前述したとおり、熊本県には作物等の垣根を超えて女性農業者が集う機会がなかった。唯一あるのは農政局主催の「熊本県女性農業者の意見交換会」で、会議には10名程度が招集されるが、あくまで「会議」であり、緊張感も手伝って親睦が深まり辛かった。

そういった経験もふまえ、会議ではなくワークショップのように、共通の関心事について語り合ったり、夢を実現したり課題を解決するためのアイデアについて語り合ったり、人脈が広がるような親睦交流の場や機会が必要であると考えている。

■メンバーを増やす目的も含めたイベントの企画開催

新規メンバーを募集していくためにも、グループ内の勉強会や視察などの小規模な活動以外に、県内の女性農業者へ広く呼びかけして行うイベントを計画実施する必要がある。このイベントの開催においては、広く女性農業者に情報が行きわたるよう、行政や地元企業とも連携しながら告知していく必要がある。

■女性のグループ活動継続のための財源確保

女性のグループ活動に関して、本事業には大いに助けられるものの、不採択となった年は活動が制限・縮小されてしまう。財源について、ある程度不安なく有益なグループ活動を続けていけるようにしていく事は、課題の1つである。

(注) (2)、(3)の取組に係る具体的な課題を記載する。

(2) 女性の働きやすい環境を整備するための託児スペース、男女別トイレ、更衣室等の確保にかかる計画（実績）

確保する施設等の区分		①託児スペース ②男女別トイレ ③更衣室 ④休憩スペース ⑤アシストスーツ、高さが調節できる作業台等の備品の確保 ⑥その他					
区分番号 (注1)	時期	確保場所	数量	利用する 女性農業 者の人数 (注2)	事業費 (千円)	国庫補助金	備考
計							

(注1) 「確保する施設等の区分」から該当する区分番号を選択し、記載すること。また、⑤又は⑥を選択した場合は、確保する施設等の名称も記載すること。

(注2) 農業者は、新規参入者、自営農業就農者（結婚を機に就農された者を含む）、雇用就農者、アルバイト、ボランティア等の農業関連事業を含む年間30日以上従事のものとする。

農業関連事業とは、農産物製造・加工、農畜産物の貯蔵、運搬、販売、農業生産資材の製造、農作業の受託、都市住民等の農作業体験施設の設置・運営や民宿業を含む。（3）において同じ。

(注3) 必要に応じて項目を変えずに行を追加すること。

(3) 女性農業者グループの立ち上げ、グループ活動の開始又は発展のための新たな取組にかかる計画（実績）

取組区分		①商品等開発 ②先進地視察 ③会員募集・農業体験の受入等にかかる取組 ④研修会 ⑤マルシェ開催に向けた取組 ⑥その他					
区分番号 (注1)	時期	内容	実施 回数	参加する 女性農業 者の人数	事業費 (千円)	国庫補助金	備考
④	7~2	勉強会・会議等の開催	3	10名/回	478	478	
③④	8~1	大規模イベントの開催	1	50名			
⑥	7~2	備品の調達	-	-	21	8	
⑥	7~2	消耗品の調達	-	-	23		
⑥	7~2	その他（振込手数料）	-	-	3		
計					535	487	

(注1) 「取組区分」から該当する区分番号を選択し、記載すること。

(注2) 必要に応じて項目を変えずに行を追加すること。

【事業成果及び今後の展開】

※第4の(2)「グループの新たな取組」のみ記載

※区分番号に対応するように記入ください。


※どのようにグループ活動の活性化及び今後の活動に繋がるか分かりやすく記入ください。

※できる限り、数値目標を入れてください。

※商品づくりに関しては、翌年度以降の販売事業計画も併せてご記入ください。

区分番号	事業成果、今後の展開
③④	初年度のグループ活動を実施していくことで、メンバー間の結束の強化を図り、更に県内女性農業者に広く参加を呼び掛けるイベントを1回実施。新規メンバーを募集する事で横の繋がりを増やし、より多くの女性農業者が活躍できる場や機会を得ることができるようになる。
③	立上げ時点のメンバーから、さらに横の繋がりを増やしていく事で県下全域のネットワークを構築する事ができる。これにより、1人又は1経営体だけでは解決できない事、実現が難しい事にも取り組んでいく事ができる。また、メンバーが増えると地域毎の活動もしやすくなる。
③④	メンバー間での夢の共有、はじめの一步探し、共通の夢を実現する為の仲間づくりや、夢実現のために必要なスキルアップの機会を提供（グループ内の勉強会は2回開催予定）するなど、女性農業者が仕事を通して輝き、夢を実現できるようサポートしていく事ができる。
③④	女性農業者がチャレンジしたい事や夢は、必ずしも所属経営体内だけで実現できるものばかりではない。それは悩みについても同じであるため、職場でも家庭でもない第三の居場所があり、そこで同じ志や課題を持つ人々と前向きな時間を持つことは、長く仕事を続けていくためにも必要で有益な事であるため、サードプレイス的な場作りを目指していく。
③④	女性農業者がそれぞれの夢を実現し輝いていく事で、若者にとって農業という職業が魅力的に見えるようになり、そのことが結果的に将来の担い手を増やしていくことに繋がる。
⑥	印鑑や文具等の消耗品や備品等を調達する事で、勉強会やワークショップなどのグループ活動が円滑に進められる。

4 本事業を活用した取組計画（注）

時期	取組内容・回数	備考
2021.12~	<p>【女性の農業への呼び込み・定着・活躍のための応募団体における取組（既存の取組を含む）】</p> <p>■熊本県において初の女性農業者グループを立ち上げるため、2021年からこれまで計5回の検討会を開催してきた。</p>  <p>写真：検討会の様子</p>	

2021. 12～	<p>■検討会の開催においては農政局や地元企業等と連携し、女性農業者への声かけや検討会の場所提供、配布資料の準備などについて協力いただきながら進めてきた。</p>	
2023. 2. 1	<p>■これまでの検討の結果、参加メンバーの強い意志によりグループ（任意団体）を設立する事が決定し、本年2月1日に発足させることができた。</p>	
2023. 2. 27	<p>■都合のつく仲間と共に県にも設立の報告と協力依頼を行った。</p>	
	<div data-bbox="798 616 1236 896" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="941 896 1204 929">写真：木村副知事表敬訪問</p> <p data-bbox="406 952 925 996">【本事業を活用した取組の実施方針】</p> <p data-bbox="391 996 1264 1366">現在のところ、初期メンバーとして12名ほどが集まっているが、仕事以外でも妊娠出産や育児、介護や孫の子守など、それぞれの事情で活動に参加できない時期やタイミングがあり毎回全員集まれる訳ではない。みんなの夢や課題、又は所属地域等でグルーピングしてチームづくりをしていく事も視野に入れ、無理ない範囲で活動しながら少しずつ枝葉を広げるように増員していく。</p> <p data-bbox="391 1366 1264 1467">そして共に学び成長しながら、夢を叶え、課題を解決していける力をそれぞれが身につけていく。</p> <p data-bbox="406 1534 829 1579">【具体的に実施する取組内容】</p>	<p data-bbox="1276 952 1380 996">【目標】</p> <p data-bbox="1264 996 1513 1153">新規メンバー 翌年末までに 8名増員</p> <p data-bbox="1264 1209 1513 1310">大規模イベント 今年度1回開催</p> <p data-bbox="1264 1366 1513 1467">勉強会・会議等 今年度3回開催</p>
<p data-bbox="207 1579 391 1680">交付決定～8 月頃</p>	<p data-bbox="406 1579 766 1624">(1) 勉強会＋会議 1回</p> <p data-bbox="454 1635 1264 1736">勉強会の内容は、メンバーの興味や社会情勢等を踏まえて検討する。会議はイベントに関する意見聴取。</p> <p data-bbox="406 1747 782 1792">(2) 大規模イベント企画</p> <p data-bbox="406 1803 813 1848">(3) ロゴ案に関する打合せ</p> <p data-bbox="406 1859 1069 1904">(4) 印鑑など運営上必要な事務用品等の調達</p> <p data-bbox="406 1915 734 1960">(5) 第1期の総会開催</p> <p data-bbox="406 1971 1021 2016">(6) 情報発信のためのSNSアカウント作り</p>	

9～11月頃	(1) 大規模イベント開催 1回 既存メンバーだけでなく、非メンバーの女性農業者、その他関係者等を参加対象としたイベントを開催する。女性農業者が、学び・語り・交流しながら夢や課題解決に向けた1歩を見つけられる。そのような方針で企画する。農政局、県、地元企業等の協力を得ながら告知を行い、新規メンバー募集も呼びかける。	
11～12月頃	(1) 2024年の活動に関する検討会開催 1回 (全体招集1回、3役打合せ2～3回見込み) 大規模イベントを経て、来年の活動について検討を行う場とする。	
2024.1～2月	(1) 勉強会＋会議 1回 全体招集1回、3役打合せ2～3回見込み 勉強会の内容は、メンバーの興味や社会情勢等を踏まえて検討する。会議は2024年の活動計画報告予定。	

(注) 3の取組を踏まえ、5の目標の達成のために実施する取組内容を具体的に記載する。

5 女性農業者確保の目標 (注)

翌年度末までの女性農業者の新規確保人数 (注) 女性グループへの新規加入数を記載しています	事業実施年度	5人
	事業実施翌年度	3人
	合計	8人
(女性農業者の新規確保人数の内訳)		
自営農業就業者	8人、雇用就農者	人、アルバイト等
		人

(注) 事業実施年度の翌年度末までの新規確保人数。

(参考)

上記女性農業者確保の目標に係る女性の確保の計画 (第4の(1)「施設等確保の取組」のみ記載)
【事業実施年度】
(取組予定業務)
(採用時期)
(人数)

【事業実施翌年度】

(取組予定業務)

(採用時期)

(人数)

※必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付すること。

※国が必要と求める資料については、求めに応じ、遅滞なく提出しなければならない。